

平成 23 年 4 月 25 日

東日本大震災に関する救援・復興支援室の発足に当たって

このたび、東京大学では、地震発生から 1 カ月を経た 4 月 11 日付けで、東日本大震災に関する救援・復興支援室を設置しました。昨日までの統計では、震災による死者は 14,300 人、行方不明者は 11,999 人に達し、また、不自由な避難生活を強いられている方々も 13 万人を越えています。被災された皆さま方の状況は深刻であり、救援活動を絶えることなく継続すると同時に、復興を目指す活動にも着手することによって、被災された皆さま方が希望を持てる生活基盤の確立を一刻も早く図らなければなりません。

このような状況にあって、救援・復興支援室においては、東京大学の構成員が携わる救援活動と復興支援活動を効果的・組織的に推進し、被災地域、被災された皆さま方にとって、真に意味のある活動を持続的に推進していきたいと考えています。こうした活動にあっては、何より構成員の自発的な思いと自主的・自律的な活動こそが求められるものであり、それらを最大限に促しながら、情報収集・発信、連絡調整を含めた効果的な組織的活動を行っていくつもりです。

救援・復興支援室の下にボランティア支援班を設置しました。ボランティア活動についても一時的なものに終わらせるのではなく、それを息長く持続させていけるような支援体制が必要です。ボランティア活動は、救援・復興支援において重要な役割を果たすとともに、教職員や学生が、知識と「タフさ」について経験し考える機会ともなるものと思います。

すでに、東京大学の少なからぬ教職員・学生が、救援・復興支援に関する活動を開始しており、それらを相互に結びつけ、ネットワーク化していこうという動きも活発化しています。大学としても岩手県の遠野市に、救援・復興支援の現地拠点を設けることとしました。自発的な活動やネットワークが持つ柔軟性と、大学の救援・復興支援室の活動が持つ組織性との相乗効果を最大限に発揮しつつ、活動を展開していきたいと思っています。これは、東京大学という組織が、その社会的責任を果たすためにさらにレジリエントな強さを備えていくための挑戦であるとも考えています。

救援・復興支援室の室員の皆さんの奮闘、そして救援・復興支援をめぐる連帯の輪のさらなる拡大に向けた取組みをお願いします。

東京大学総長

濱田 純一